

**令和2年度第1回  
いわき市地域包括ケア推進会議資料**

**地域包括ケア推進課**

# 目 次

地域包括ケアシステムの推進について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

## 【議事】

- 1 新型コロナウイルス感染症による影響と取組みについて・・・・・・・・・・3
  - 1) 市の相談件数・検査件数・患者数・入院患者の推移
  - 2) 地域の高齢者への影響と地域包括支援センターの対応
  - 3) 要介護・要支援申請件数（新規・変更）、高齢者虐待に係る届出・通報件数
  - 4) 各事業の取組み
- 2 各地域での取組み状況について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
  - 1) 中地域ごとの取組み
  - 2) 地域の注目すべき取組みの事例
- 3 地域ケア会議の今後の方向性について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31

## 【資料】

- 1 いわき市内における要介護・要支援申請件数の推移
- 2 いわき市内における高齢者虐待に係る届出・通報件数

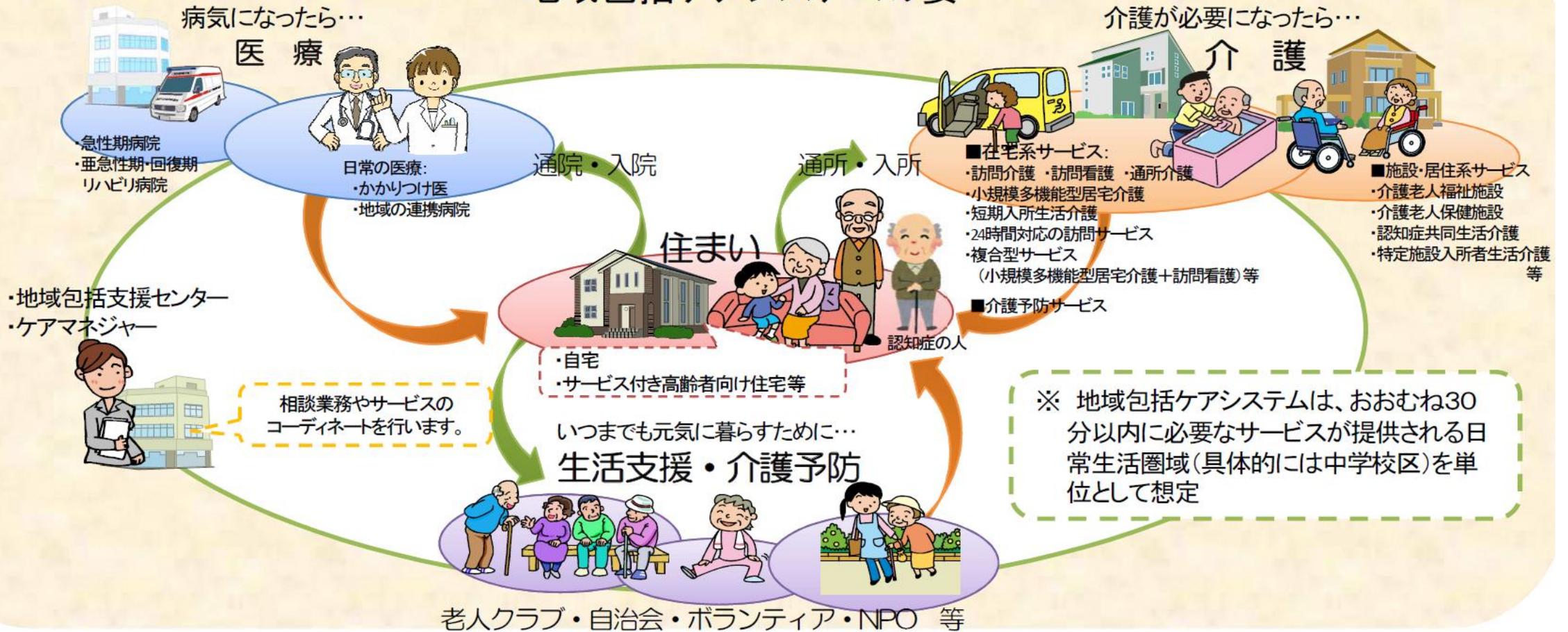
# ◎地域包括ケアシステムの推進について

## 地域包括ケアシステムの構築について

- ◆ 平成26年6月に「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律（医療介護総合確保推進法）」が成立し、要介護状態になっても住み慣れた地域でできる限り生活を継続できるよう、医療・介護・介護予防・住まい・生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」を構築することとされた。
- ◆ 「第8次市高齢者保健福祉計画（平成30年～32年度）においては、「ひとりひとりが安心して自分らしく暮らせるまちいわき」を基本理念とし、「団塊の世代」が後期高齢者となる「平成37年（2025年）に向けたビジョン」として、「健康寿命の延伸」と「いわき市地域包括ケアシステムの構築」を位置付けており、その実現に向けて各種施策を推進している。

# ◎地域包括ケアシステムの推進について

## 地域包括ケアシステムの姿

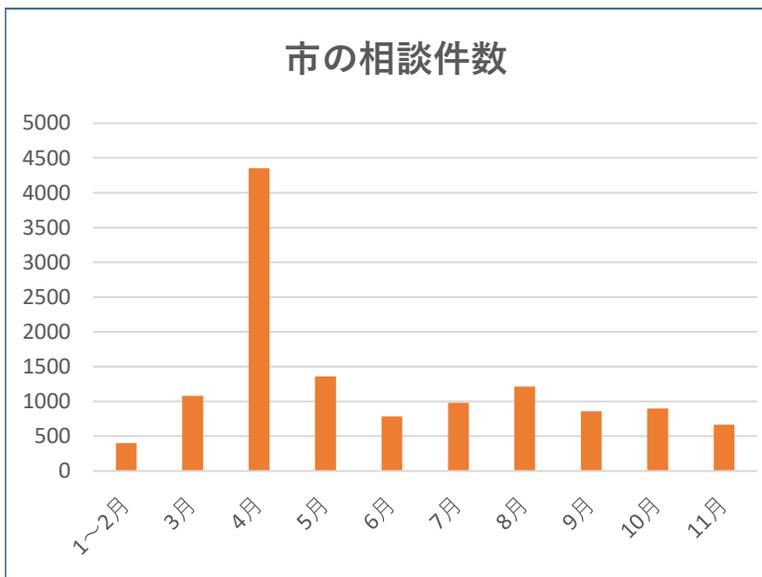


介護保険制度等による公的サービスのみならず、ボランティア活動や住民同士の支え合いなどの多様な資源を、地域の中で総合的・継続的に提供できる仕組みづくり・地域づくりが求められている。

# 1 新型コロナウイルス感染症による影響と取組みについて

## 1) 市の相談件数・検査件数・患者数・入院者数の推移（11月30日現在）

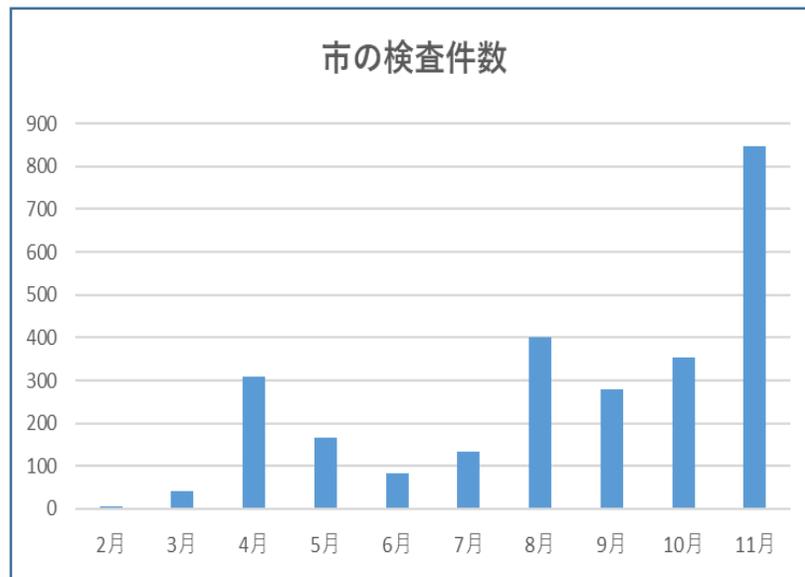
○市の相談件数の推移



【月別相談件数】 単位：件

1~2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
399	1,080	4,351	1,360	782	979	1,212	858	897	664

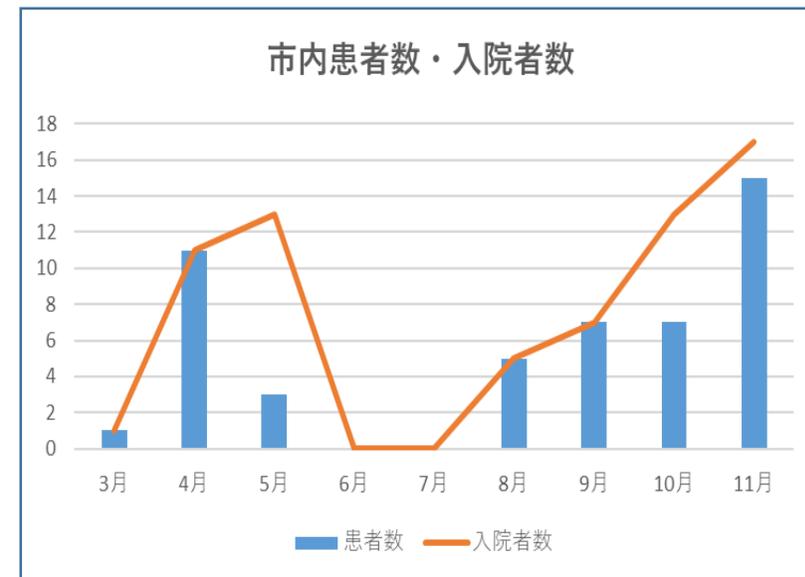
○検査件数の推移



【検査件数】 単位：件

2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
7	40	310	166	84	135	400	280	354	848

○患者数・入院者数の推移



【患者数・入院者数】 単位：人

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
患者数	1	11	3	0	0	5	7	7	15
入院者数	1	11	13	0	0	5	7	13	17

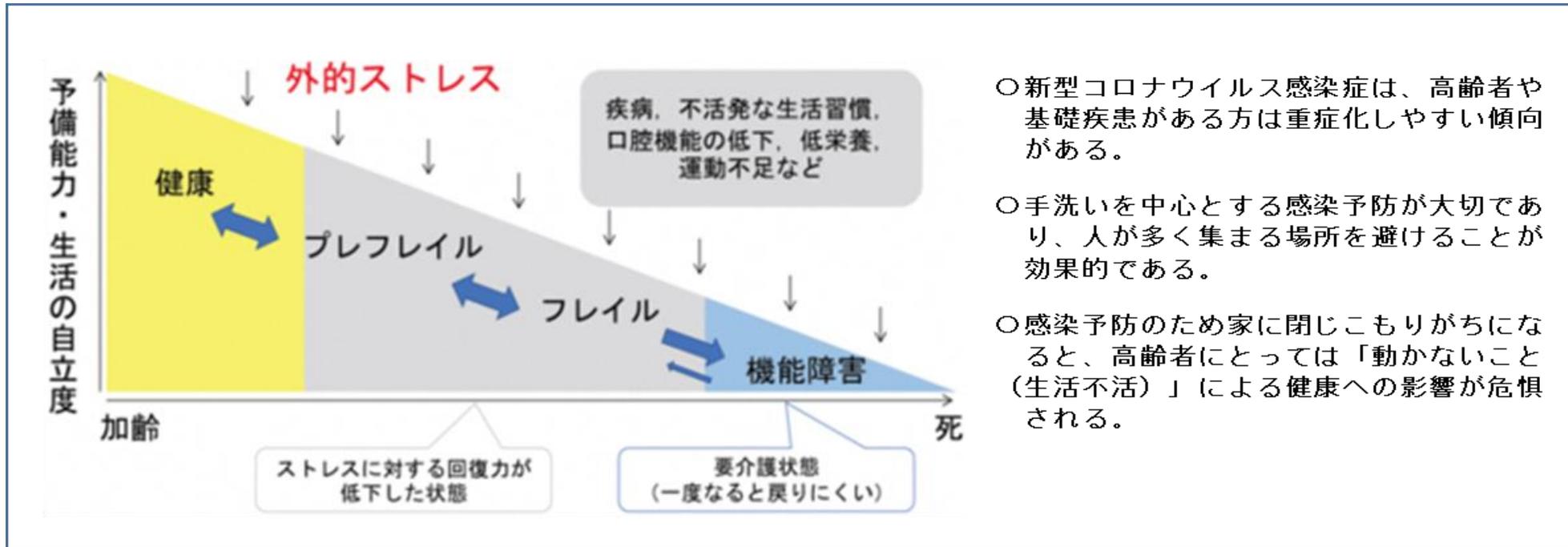
# 1 新型コロナウイルス感染症による影響と取組みについて

## 2) 地域の高齢者への影響と地域包括支援センターの対応

### 【緊急事態宣言下の高齢者の状況】

- 高齢者は自身の判断で緊急事態宣言中の外出自粛を徹底している方が多くみられた
- つどいの場中止など、他者との交流機会が減少していた
- ⇒長期化するとフレイルの危険性がある

出典：国立長寿医療研究センター在宅活動ガイド2020



# 1 新型コロナウイルス感染症による影響と取組みについて

## 2) 地域の高齢者への影響と地域包括支援センターの対応

○訪問を拒否されたため電話のみで対応するケースがあった

⇒問題点：電話でのやり取りのみでの対応の場合、対象者が難聴であったり、言語不明瞭であった場合に、意思疎通を図ることに困難さが見られた

○訪問時に感染防止対策を徹底した

- ・必要最低限の訪問とし、優先順位を決めながら対応
- ・対応時間の短縮、換気、マスク着用に注意して対応
- ・事前に対象者へ連絡して、了承を得てから訪問した

○7月以降、介護予防講話を実施した際に、手洗い・消毒の資料を配布することで感染症予防について啓発した

○介護サービス利用時の感染防止対策に関する相談があった

例) 高齢者自身は介護サービスを受けたいが、感染予防の観点から家族に反対される

感染拡大地域に居住の親族が訪問できないため介護サービスを希望するが、本人が拒否

○感染拡大地域に居住の親族の訪問に対する相談やトラブル（※実例ケース）

# 1 新型コロナウイルス感染症による影響と取組みについて

## 2) 地域の高齢者への影響と地域包括支援センターの対応

### 【市外居住親族とのトラブルケース】（実例ケース）

緊急事態宣言下において、利用者の家族が関東圏（感染拡大地域）から安否確認に来るとの話があった。

担当ケアマネジャー（民間事業所）は、利用者にサービスの提供をしている介護保険サービス事業所が「利用者又はその家族・親族が感染拡大地域への行き来をした場合には、2週間サービスの利用自粛をお願いしている」との方針であることを事前に把握していたため、利用者の家族にいわき市に来ることを自粛するようお願いしたところ、「なぜそんなことを言われなくてはならないのだ、ケアマネジャーを変える」と言われた。

その後の経過として、利用者の家族はいわき市に安否確認に来たうえ、担当ケアマネジャーも変更することとなった。また、利用していた介護保険サービスについても、今までサービスを提供していた事業所がサービス提供できないとのことであったため、サービス提供が可能な事業所を探してサービス提供が可能となった。担当ケアマネジャーの変更の調整やサービス提供可能な介護保険サービス事業者の調整については地域包括支援センターが行った。

# 1 新型コロナウイルス感染症による影響と取組みについて

## 3) 要介護・要支援申請件数（新規・変更）、高齢者虐待に係る届出・通報件数

参照：別添資料

### ○要介護・要支援申請件数（新規・変更）の推移（資料1）

4～9月について平成30年度は3,614件、平成31年度（令和元年度）は3,644件、令和2年度は3,635件となっており、件数として大きな変化は見られない。

### ○高齢者虐待に係る届出・通報件数（資料2）

4～9月について平成30年度は72件、平成31年度（令和元年度）は62件、令和2年度は75件となっており、件数として大きな変化は見られない。

### ◎地域包括支援センターへの高齢者相談の傾向

高齢者相談のうち、要介護申請に関する相談については平常時と同様であったが、虐待等の権利擁護関係の相談が増加傾向にあった。

# 1 新型コロナウイルス感染症による影響と取組みについて

## 4) 各事業の取組み

### つながるいわき事業 (igoku) ①

新型コロナウイルス関係特設サイト「家でいごくべ開設」(令和2年5月1日開設)

→緊急事態宣言の解除を受け、新たな生活スタイルを模索する意味も込めサイトの名称を「新しくigoku」に変更(令和2年6月末変更)

地域包括ケアの推進のため、本来は大切である、各地域で人が集まり、言葉を交わし、顔色を見てお互いの健康を確かめ合うことができない状況を踏まえ、新型コロナウイルス感染症における情報を少しでも分かりやすく届けることを目的として開設

【主なサイト掲載内容】

【ハイライト画像】

区分	主な内容
5つのところがけ	igokuが提案する感染予防に対する心がけを掲載
感染してるかも?と思ったら	セルフチェックができるよう、症状例と相談のながれのフローチャートを掲載
ニュース	市内の様々なニュースや取り組みを掲載
映像ニュース	市内で感染拡大防止のために活動する方へのインタビュー等、様々な取り組みを映像で紹介
家でシルリハ	「シルバーリハビリ体操」をインストラクターが映像で紹介
相談窓口一覧	最低限必要な各種相談窓口を掲載



主な映像ニュース内容

関係者インタビュー、シルリハ動画、料理動画等

映像ニュース

いわき市内でコロナウイルス感染拡大防止のために活動する人たちのインタビューや、様々な取り組みを映像で紹介するコーナーです。見やすく、わかりやすく、伝わりやすく、現場の声や専門家の声を届けます。igokuTVのチャンネル登録もお願いします。



コロナ禍とフレイル予防

コロナ禍による行動制限で、シニア世代の健康に影響が出る恐れがあります。フレイル(虚勢)の予防について、いわき市医師会会長で、木村医院院長の木村守和先生にお話を伺いました。健康を維持するポイントとは?



福島県赤十字血液センターに聞く、コロナ禍での献血状況

コロナ禍で大型イベントが自粛となり、大きな影響を受けているのが「献血」です。これまではイベントに献血車が巡回して確保していた血液。自粛により、必要な量が集まらなくなっているといえます。現状を取材しました。(2020年5月21日収録)

サイトの閲覧数

約5,000回(総PV数)

# 1 新型コロナウイルス感染症による影響と取組みについて

## 4) 各事業の取組み

### つながるいわき事業 (igoku) ②

不活発化防止対策冊子「動画を活用した家でも健康づくり実践のススメ」の発行 (令和2年9月1日発行)

●webサイトと動画について、シニア世代に対して、再開したつどいの場で実際に閲覧してもらい、ニーズや認知度を把握

#### 【実際の主な声】

- ・家で動画を見るのは難しい
- ・市のホームページを見る機会がない
- ・動画の掲載場所が分からない
- ・動画を見る媒体がない
- ・紙とかDVDとか手元に何かあれば見るかも



#### 【知ってもらう&やってもらうの必要性】

動画を見れない環境の方や再度の外出自粛、そもそも交流をあまりしない方を想定して

動画の紹介とダイレクトに見れる紙媒体  
⇒動画と連動した冊子を作成して配布する



- フレイル予防のポイントや栄養-運動-社会参加のセクションごとに説明と対象の動画を写真入りで掲載
- 各内容とリンクする動画ページのQRコードを掲載
- 市の公共施設(公民館等)、金融機関、商業施設等+対象となるシニアが集まるつどいの場等で直接配布。
  - ・動画自体の紹介もかねて(まずは知ってもらう)
  - ・QR使ってみよう(楽に動画を見てみよう)
  - ・家でもやってみよう(一人でやってみよう)
  - ・知り合いにもおしえてみよう(つながりを広めてみよう)



# 1 新型コロナウイルス感染症による影響と取組みについて

## 4) 各事業の取組み

### つながるいわき事業 (igoku) ③ 「igokuFes2020 オンライン」の開催 (令和2年10月25日開催)

「igokuFes」(いごくフェス)は、様々なプログラムや体験型のコンテンツを通して、生きること、老いること、病気になることや死ぬこと、つまり人生そのものをポジティブに、いつもとは違った角度で楽しんで、それをきっかけにみんなで考えて、大事な人と話し合う機会になればとの想いで開催。

※ 令和2年度は新型コロナウイルスの影響により無観客オンライン配信で開催(生配信と同じ内容をアーカイブ配信中:<https://youtu.be/haeAd6osr7Y>)

#### 【igokuFes2020オンライン概要】

日時:令和2年10月25日(日)17:00-19:00(2時間生配信)※一部収録

配信会場:いわきclub SONIC(福島県いわき市平大工町)※無観客

配信サイト:YouTube アカウント:igokuTV(※視聴料無料)

配信コンテンツ

- 「終活セミナー」講師:武藤 頼胡(終活カウンセラー協会理事)
- 「じゃんがら念仏踊り」磐城じゃんがら遊劇隊
- 「ダンスパフォーマンス シン密」んまつーポス×シルリハ指導士とその孫
- 「即興芝居 シン密」即興コメディ集団ロクディム
- 「事故物件トークショー」松原 タニシ

総再生回数  
約4,500回  
(R2.11.20現在)

#### igokuFes参加者(視聴者)の方から寄せられた声

- いごくの精神であろう誰もが自分の望む場所で暮らし続けることができる生活を自分自身から目指していこうと思いました(内郷地区在住 70代男性)
- 終活のノート(エンディングノート)をいわき市では無料で配布している案内は多くの人にインパクトを与えたと思います。みんなでノートをもらって健康なうちに完成させましょう(好間地区在住 70代女性)



かよ @K1203\_koji  
見ている1人1人が、故郷を思う。家族を思う。そういう温かい大切な気持ちになれる素晴らしいイベントだと思う。なんか、ばあちゃんに会いたくなる。

一度見に行ってみて見たかったイベントだから、配信して下さいって本当にありがたい。

#いごくフェス2020



姫楓 @himeka08111  
#いごくフェス2020"いごく"って動くって意味なんですね。介護福祉士の資格を持っている私としては色々な意味で包括センターは介護業務で必要な身近に感じます。いわき市小名浜は母の故郷です。親戚もいないので遠のいてしまいましたがいわき市でこのようなイベントをしてる事何かうれしいです

午後6:37 · 2020年10月25日 · Twitter for Android



# 1 新型コロナウイルス感染症による影響と取組みについて

## 4) 各事業の取組み

### つどいの場・シルバーリハビリ体操

#### 【新型コロナウイルス感染拡大を受けた対応】

6月まで活動自粛依頼、指導士派遣を中止していたが、7月以降はマスクの着用や消毒、活動時間の短縮など感染予防対策が取れる団体から順次活動を再開している。

#### 【自粛期間中の対応】

団体代表に対して電話等による交流継続を依頼したほか、自宅においてシルバーリハビリ体操ができるような支援を行った。

【方法】 インターネットでの動画配信  
広報いわきでの体操の連載

#### 【つどいの場再開の状況】

10月時点でほぼすべての団体に活動を再開している。



# 1 新型コロナウイルス感染症による影響と取組みについて

## 4) 各事業の取組み

### オンラインつどいの場「おうちでつながる会」(新規) ①

#### 【目的】

つどいの場の参加者を対象に自宅で参加できるオンラインつどいの場を実施することにより、自宅においても介護予防の活動や地域とつながる機会を確保できることを学び、現在開催しているつどいの場に加えて、今後のつながり方として、オンラインの活用の普及・啓発を図る。



おうちでつながる会 プログラム1回目 「タブレット教室」の様子

# 1 新型コロナウイルス感染症による影響と取組みについて

## 4) 各事業の取組み

### オンラインつどいの会「おうちでつながる会」(新規) ②

#### 【実施概要】

#### (1) 実施期間

1クール目 令和2年10月～11月末

2クール目 令和3年1月～2月末

期間中、タブレット端末を  
1人1台貸与

#### (2) 参加人数

4団体(1クールあたり2団体、1団体最大10名まで)

#### (3) 開催日時

① 毎週水曜日 9:30～10:30(初回 9:30～11:30)

② 毎週水曜日 13:30～14:30(初回 13:30～15:30)

#### (4) 開催方法

オンライン会議ツール「Zoom」を使用し、講師が参加者に対して体操や講話を実施

# 1 新型コロナウイルス感染症による影響と取組みについて

## 4) 各事業の取組み

### 認知症初期集中支援チーム

平成30年度にチーム員を増員し、令和元年度は地区会議が開催できる体制へ整えたところであったが、新型コロナウイルス感染症の流行は、チーム活動にも影響を与えた。

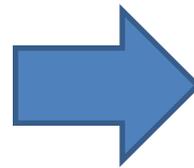
支援実績（令和2年9月末時点）

年度	新規件数	終了件数	平均支援期間	訪問回数	会議開催数
平成29年度	13件	13件	7.2か月	44回	10回( 1回)
平成30年度	22件	21件	4.6か月	76回	21回(11回)
令和元年度	18件	15件	4.8か月	106回	21回(12回)
令和2年度	3件	0件	-	-	8回( 4回)

※カッコ内は地区会議

昨年度の評価

- 令和元年度の新規件数18件となっているが、下半期（10月～3月）の取扱いは4件のみ
- 下半期は令和元年東日本台風やコロナ禍において、訪問活動や会議開催は最小限に抑えられたものの、平均支援期間が前年度とほぼ変わらず、訪問回数は増えており、各ケースに手厚い支援ができていたものと考え



今年度の状況

- 7月以降、徐々に訪問活動が再開
- 感染症対策のため、月1回のチーム員会議は、Zoomを活用したオンライン会議で対応中
- 各地区会議は、医療介護用の多職種連携コミュニケーションツール「メディカルケアステーション（MCS）」を活用し、集まらなくても、随時、意見や情報を交換できる体制をとっている

# 1 新型コロナウイルス感染症による影響と取組みについて

## 4) 各事業の取組み

### 認知症カフェ事業「オレンジカフェ以和貴」 & 認知症サポーター養成講座

#### ◆ 認知症カフェ事業「オレンジカフェ以和貴」

開催実績（令和2年9月末時点）

年度	カフェ数	開催回数	中止回数	参加人数
平成29年度	7か所	83回	-	915人
平成30年度	8か所	78回	-	846人
令和元年度	10か所	97回	13回	1,069人
令和2年度	10か所	23回	56回	189人

・今年2月～感染症対策のため、中止するカフェが増え、4月～6月は開催自粛を要請。

・自粛中も各カフェでは常連客に手紙や電話で安否確認を行うなど、つながりを保つ工夫をしている。

・7月～感染予防の徹底や会場の変更など予防対策を講じ、開催可能なカフェから順次再開している。

➡再開したカフェの参加者数は以前とほぼ変わらず、カフェ以外の外出先がない高齢者もあり、必要性を再認識。

#### ◆ 認知症サポーター養成講座

令和2年度 市民向け認知症サポーター養成講座一覧

回	日程	会場	定員	参加人数
第1回	4月24日(金)	イオンモールいわき小名浜	100名	中止
第2回	6月20日(土)	浜風きらら	30名	中止
第3回	8月26日(水)	市文化センター(※)	70名	10名
第4回	11月7日(土)	勿来市民会館	30名	-
第5回	12月16日(水)	小名浜公民館	30名	-
第6回	2月13日(土)	常磐公民館	20名	-

・コロナ禍において、集客しての開催が困難であったため、市民向け講座は、第1回・第2回ともに中止とした。

・講師を務める「認知症キャラバン・メイト」によっては、感染症対策のため、所属外での活動を自粛している人もいる。  
例年と比べると、講座の開催数やサポーターの養成数は減少傾向にある。

・7月以降、小・中・高の教育機関から、講座（小学生向け認知症教室を含む）の依頼が増加している。

※いわき産業創造館から変更

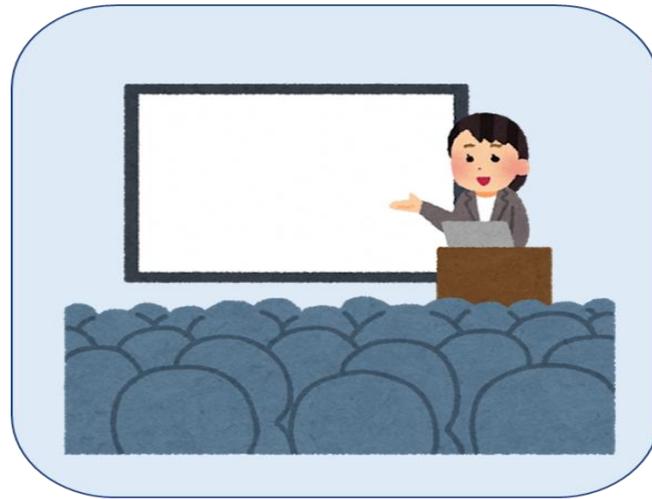
# 1 新型コロナウイルス感染症による影響と取組みについて

## 4) 各事業の取組み

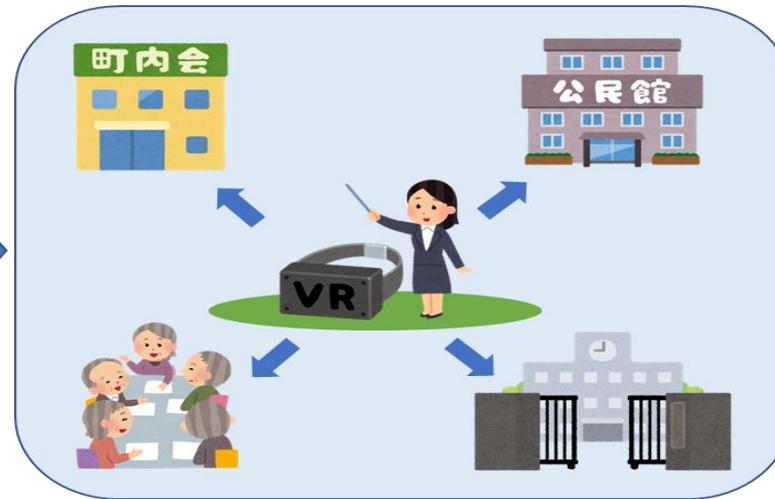
### 出張型「VR認知症体験」

VR機器を活用し、自身の視覚・聴覚でいくつかの認知症の症状を本人視点で体験できるVR認知症体験。これまで、いごくフェスや認知症講演会として実施し、体験者から大変好評を得た。コロナ禍においては、大規模会場に集客することは困難なため、開催方法を「出張型」に変更して今後も継続していく。

これまでは会場に大勢を集める【招集型】



これからは地域へ出向く【出張型】



#### 【実施方法】

- ・ 随時申込制とし、希望者は所定の申込書を地域包括ケア推進課へ提出
- ・ 申込者の指定する日時・会場に、地域包括ケア推進課職員が機材をもって出張。職員がファシリテーター（進行役）を務め、体験を実施（※視聴するVR認知症コンテンツは㈱シルバーウッドが提供）

**より身近な場所（会場）で、より多くの方に、体験いただけるようになる**

# 1 新型コロナウイルス感染症による影響と取組みについて

## 4) 各事業の取組み

### 配食サービス ①

【実績：令和2年度は9月末時点】

年度	利用人数	配食数
平成29年度	1,000人	160,416食
平成30年度	1,036人	172,177食
令和元年度	1,045人	185,809食
令和2年度	1,086人	98,415食

【新型コロナウイルス感染拡大を受けた対応等】

- ・本人へ手渡しすることで安否確認を行う事を原則としているが、感染症対策として利用者の意向を確認した上で、インターホンや玄関先等からの呼びかけにより安否確認を行い、手渡しでなく指定された場所に配食できることとした。
- ・これまでのところ感染症拡大の影響で利用を休止する利用者及び事業者はない。

# 1 新型コロナウイルス感染症による影響と取組みについて

## 4) 各事業の取組み

### 配食サービス ②

#### 【新規参入事業所について】

令和2年10月より、新規事業所として田人おふくろの宿が参入した。  
田人地区については、これまで旅人地区など、空白地域があったが、今回の参入をもって、全ての地区への配食が可能となった。

参考: 地区別 配食サービス配達可能事業所数

地区	平	小名浜	勿来	田人	常磐	遠野	内郷
事業所数	16事業所	16事業所	7事業所	3事業所	12事業所	3事業所	9事業所

地区	好間	三和	四倉	久之浜 大久	小川	川前
事業所数	6事業所	2事業所	6事業所	2事業所	3事業所	1事業所

# 1 新型コロナウイルス感染症による影響と取組みについて

## 4) 各事業の取組み

### 住民支え合い活動づくり事業 ①

#### 第2層協議体

日常生活圏域 13ヶ所（旧市町村圏域）に協議体を設置

日常生活圏域で第2層協議体を開催（年2回開催予定）

第2層協議体で提供しているサービスの情報共有・課題の洗い出し

各協議体において出された主な意見（令和2年9月末）

- 地域住民を動かすには区長の協力が必要である
- 買い物や通院などの移動支援が必須な地域がある
- 2層協議体の委員に役割を与えて活動してはどうか

各協議体で  
解決を目指す



田人地区第2層協議体の様子（9月29日開催）

田人地区の山間部では、コロナの影響でこれまで以上に人と人の交流機会が減少しており、支え合い活動での声かけ活動などが重要な要素となる。

- 空白地帯への働きかけ
- 既存団体への支援  
など

#### 連携・情報共有

- 具体的な活動の紹介
- 地域の現状・課題の伝達  
など

#### 第3層協議体（詳細は次ページ）

行政区圏域に設置（現在、市内40団体が活動中）

# 1 新型コロナウイルス感染症による影響と取組みについて

## 4) 各事業の取組み

### 住民支え合い活動づくり事業 ②

#### 【第3層協議体の活動状況】

##### ● 各地区の協議体数（9月末現在）

平 (2)	小名浜 (3)	勿来 (2)	常磐 (2)
内郷 (4)	四倉 (2)	遠野 (10)	小川 (4)
好間 (3)	三和 (1)	田人 (2)	川前 (2)
久之浜・大久 (3)		市内全域 40地区	

##### ● 令和2年度新規立ち上げ地区（9月末現在）

地区	団体名	実施予定内容
内郷	宮一区	1人暮らしの高齢者や高齢者のみ世帯への見守り・声掛け活動を基本として、日常から災害時の見守りまで、住民同士が出来る支え合いを広めたい。
内郷	高坂七区 二丁目自治会	日常の見守りを通じて、支援を必要としている住民に必要な支援が出来るよう、支え合い活動を展開していきたい。
小川	高萩行政区	1人暮らし高齢者等のお宅へ訪問し、依頼に応じて必要な生活支援（ゴミ出し、買物代行、庭木の剪定等）を実施していきたい。

#### コロナ禍における各団体の動き

- 支え合いのサポーター・利用者ともに高齢であることもありコロナ感染に対する不安の声は多い。
- 緊急事態宣言時には、定期的に行っていた声かけ訪問を中止し、電話による声かけやチラシの配布を実施する団体もあった。
- 新しい生活様式を踏まえ、感染症予防を図りながら活動を展開。

#### 最近の依頼の傾向

本人の代理で敬老記念品を支所まで取りに行きたくて欲しいといった要望がある。  
これまでの買い物代りのほかにも手続きなどの代行依頼が増える可能性がある。



9月末に開催された「城山ゆいの会」（平）と「船尾いきいきサポーターの会」（常磐）の活動情報交換会

互いの団体の良い活動をPRしたり、買い物や通院における支援の方法など日ごろの活動における課題を共有し、これまで以上に意識の醸成が図られました。

## 2 各地域での取り組み状況について

### 1) 中地域ごとの取り組み

第8次いわき市高齢者保健福祉計画期間(平成30年度～令和2年度)における取り組みをまとめ、それぞれをより深化・推進していくことを目指す

#### 平地区中地域ケア会議

##### ◎日常的な介護予防や地域活動の拠点となる「つどいの場」の拡大

- ・地域の集会所や公民館でシルバーリハビリ体操教室を実施(つどいの場創出事業)
- ・つどいの場で薬剤師、栄養士などの専門職が講座を開催

##### ◎各種事業等の促進

- ・住民支え合い活動づくり事業(ゴミ出し協力、スーパー・移動販売の情報提供)
- ・認知症サポーター養成講座の開催(全世代対象)、男性介護者のつどい、料理教室

##### ◎専門職が連携して住民主体の福祉活動等と協働できる仕組みづくり

- ・医師会主催の「在宅医療出前講座」を開催し、介護予防やかかりつけ医の必要性を周知。
- ・平地区多職種連携の会と共に、市民啓発のため「家で暮らしたい」をテーマに劇や徘徊模擬訓練等を実施

## 2 各地域での取り組み状況について

### 1) 中地域ごとの取り組み

#### 小名浜地区中地域ケア会議

##### ◎認知症に関すること

- ・小名浜地区認知症在宅ケア講演会の開催
- ・認知症徘徊模擬訓練の実施
  - ⇒平成28年泉町地区「認知症声かけ・搜索訓練」を地域住民と協力し実施していた
  - ⇒令和元年度からは「認知症声かけ・搜索訓練」を住民主体で年一回継続して実施
- ・認知症対策部会の設置
  - ⇒高齢者の認知症に関する地域での諸問題について専門的に検討するとともに地域の中で啓発活動を企画・実施する部会
  - ⇒「専門職の学びの場」をかしま病院コミュニティホールで実施（H31.2）。ケアマネ、施設職員等が55名参加（アンケート結果好評）

##### ◎地域づくりに係ること

- ・つどいの場の実施。現在約75ヶ所で介護予防教室（シルバーリハビリ体操教室など）

##### ◎高齢者に対する医療・介護・福祉に関する学習の機会の提供

- ・「学び舎～おなはま～」を実施し、高齢者全般に関わる事柄について、高齢者自身の理解を深める

##### ◎多職種・他機関との連携に関すること

- ・多問題や複雑化する家族関係への支援において、個々の担当者が課題を抱え込んでしまうことがあるが、多職種や他機関が情報を共有して支援を広げ、より良い支援に繋がられると考えられる。それを目的として「小名浜地域包括ケアシステムを構築するための多職種連携のつどい」が始まり（平成26～）医療・福祉・介護・障がいの関係機関が出席し事例検討会や顔の見える交流の場を実施

## 2 各地域での取り組み状況について

### 1) 中地域ごとの取り組み

#### 勿来・田人地区中地域ケア会議

##### ◎医療・介護・健康フェア(年1回開催)

- ・高齢者の外出を増やすきっかけ作り及び医療・介護・健康に関する地域住民の理解の促進を図ることを目的とし、講演会と健康測定等を組み合わせたイベントを開催

##### ◎移動手段、交通手段ニーズ調査

- ・ほっこり号の運用(登録制ボランティアドライバーによる輸送事業)

##### ◎介護施設等空床情報の提供

- ・介護保険施設等における空床の把握と情報提供

##### ◎田人地区講演会(平成30年6月と令和元年5月の2回開催)

##### ◎認知症カフェ(オレンジカフェ以和貴)の開設(2事業所に委託)

##### ◎福祉サービス空白地における食の確保

- ・田人地区で暮らす高齢者にとって栄養バランスの摂れた食の確保が困難な状況にあることに着目し、地域の社会資源に働きかけた。

## 2 各地域での取り組み状況について

### 1) 中地域ごとの取り組み

#### 常磐・遠野地区中地域ケア会議

- ◎つどいの情報交換会と地域リーダー育成研修会の開催
  - ・つどいの場の創出・活性化・担い手育成に向けた取り組み
  - ・つどいの場創出モデル事業「とおの山学校」
- ◎認知症高齢者が安心して生活できる地域づくり
  - ・3ステップ(わかる・見つける・支える)の段階的取り組み
  - ・「いごくBOX」「とおの山学校」⇒地域における認知症の知識習得の場
- ◎いきいき健康塾(月1回の通年開催)
- ◎医療・介護関連の講習・講座の開催(概ね年1回ずつ)
  - ・介護技術講習会・在宅医療出前講座・認知症勉強会
- ◎エンディングノートの普及・啓発
- ◎医療と介護の連携促進部会実務者協議会の開催

# 2 各地域での取組み状況について

## 1) 中地域ごとの取組み

### 内郷・好間・三和地区中地域ケア会議

- ◎認知症地域相談窓口の周知（チラシを3,300枚作成し115事業所へ配布）
- ◎内郷・好間・三和地区版認知症ケアパスの作成、配布（5,000枚作製し119事業所へ配布）
- ◎介護塾の開催（メニューの種類を5→8講座へ増）
- ◎終活講座の開催（令和元年度開催回数：2回）
- ◎認知症地域相談窓口対応職員研修（令和元年度に開催）
- ◎交流の場づくり（三和地区において三世代交流会（笑いヨガ）の実施）

終活講座（下永井地区つどいの場）



地区版認知症ケアパス（表）

～内郷・好間・三和地区版～

● 「認知症」の予防の取組みと「認知症」に関する相談先・受診先一覧

内郷・好間・三和地区版「認知症」に関する相談先・受診先を掲載しました。

**1 予防**

ここちがよいこと

- 生活習慣病の改善と体調管理
- 適度な運動と睡眠
- 脳の活性化

【認知症】を予防するには？

意識的な取り組み

- 認知症予防プログラム
- 認知症予防講座
- 認知症予防相談窓口
- 認知症予防センター

【認知症】を予防するには？

**2 気づき**

こんな症状ありませんか？

- 記憶力が落ちる
- 物忘れがひどくなる
- 判断力が落ちる
- 生活リズムが乱れる
- 認知症の疑いがある

【認知症】を予防するには？

こんな症状があれば

早期相談・早期受診

【認知症】を予防するには？

**3 早期相談・早期受診**

認知症の相談先

- 認知症ケアセンター
- 認知症ケアセンター
- 認知症ケアセンター
- 認知症ケアセンター

【認知症】を予防するには？

認知症の受診先

- 認知症ケアセンター
- 認知症ケアセンター
- 認知症ケアセンター
- 認知症ケアセンター

【認知症】を予防するには？

相談窓口は裏面2へ  
受診先は裏面3へ

地区版認知症ケアパス（裏）

～内郷・好間・三和地区で使えるサービス～

1 ● 【検索する（シムバリーバリエーション）】

事業所名	住所	電話番号	サービス内容
内郷・好間・三和地区版認知症センター	内郷町	099-551-1111	認知症ケアセンター
好間町	好間町	099-551-1111	認知症ケアセンター
三和地区	三和地区	099-551-1111	認知症ケアセンター

2 ● 【相談窓口（認知症地域相談窓口）】

事業所名	住所	電話番号	サービス内容
内郷町	内郷町	099-551-1111	認知症ケアセンター
好間町	好間町	099-551-1111	認知症ケアセンター
三和地区	三和地区	099-551-1111	認知症ケアセンター

3 ● 【早期相談・早期受診】

事業所名	住所	電話番号	サービス内容
内郷町	内郷町	099-551-1111	認知症ケアセンター
好間町	好間町	099-551-1111	認知症ケアセンター
三和地区	三和地区	099-551-1111	認知症ケアセンター

4 ● 【専門医受診（内郷・好間・三和地区）】

事業所名	住所	電話番号	サービス内容
内郷町	内郷町	099-551-1111	認知症ケアセンター
好間町	好間町	099-551-1111	認知症ケアセンター
三和地区	三和地区	099-551-1111	認知症ケアセンター

【地域包括支援センターへ！】

電話：099-551-1111

## 2 各地域での取り組み状況について

### 1) 中地域ごとの取り組み

#### 四倉・久之浜大久地区中地域ケア会議

##### ◎地域で介護予防のために活動する人材育成と活動の場の拡大

- ・いわき医療介護学校よつくら塾(第1期～3期)の参加者、平均35名以上。地域の活動等にも反映。
- ・ボランティア講座等の開催により、住民支え合い活動(第2層協議体)への参加に繋がった方あり。
- ・市医師会主催の在宅医療出前講座、開催地区を変えて、毎年1回開催。多くの地区住民の参加あり。

##### ◎認知症対策・介護予防の推進

- ・オレンジカフェ以和貴INよつくらを継続開催(久之浜大久地区はサテライト開催)
- ・小中学校にて認知症教室を実施。四倉地区の「認知症声かけ訓練」は年ごとに実施学校を変えて開催。
- ・地区の「健康推進員」対象の講座を開催し、健康事業への協力が得られる状況となった。
- ・モデル地区の方たちと地区の抱える課題抽出や分析を行い、介護予防教室を新たに開始した。  
⇒「つどいの場」新規立ち上げ

## 2 各地域での取り組み状況について

### 1) 中地域ごとの取り組み

#### 小川・川前地区中地域ケア会議

##### ◎認知症に関する啓発

- ・認知症サポーター養成講座実施

##### ◎元気シニアの活躍の場づくり

- ・小川寺子屋の卒業生が、地域で活躍する場づくりに努める

##### ◎住民主体の活動支援と普及啓発

- ・つどいの場や住民支え合い活動の支援、新たな地区への普及啓発

##### ◎多職種連携強化推進の取り組み

- ・介護支援専門員が連携に必要な専門知識を深める研修会を開催（薬剤師編、訪問看護編など）

##### ◎医療と介護サービスの充実

- ・医療講話や口腔ケア教室の実施

##### ◎見守りと生活支援の充実

- ・高齢者見守り隊、配食サービス事業者の見守り活動

##### ◎まちづくり・地域づくりと他分野との連携

- ・鬼ヶ城CCRCに向けた取り組み

## 2 各地域での取組み状況について

### 2) 地域の注目すべき取組みの事例

地域の介護支援専門員、介護保険サービス事業者、医療機関等で構成される多職種連携会議を開催することで、情報共有や問題解決に寄与している	全地区
徘徊声掛け訓練等を実施することで、地域住民の世代間交流や認知症の理解を深めることに寄与している	平地区、小名浜地区、 勿来・田人地区、 常磐・遠野地区、 四倉・久之浜大久地区
いわき市医師会と連携して各地区で「いわき医療介護学校」のほか、「在宅医療出前講座」や各種講演会を開催し、地域住民の介護予防の普及・啓発や在宅医療・健康維持等の啓発に寄与している	全地区
つどいの場の空白エリアを抽出することで、特に地域を絞って立ち上げに向けた働きかけをし、当該中地域全域につどいの場を創出できた	小名浜地区
当該地域に特化した認知症ケアパスを作成し、認知症相談窓口を開設することで、相談ルートの確立・周知ができた	内郷・好間・三和地区
配食サービス提供の空白エリアについて中地域ケア会議で検討し、事業所に働きかけ、サービス提供地域を拡大できた	勿来・田人地区

## 2 各地域での取組み状況について

### 2) 地域の注目すべき取組みの事例

#### 地域における介護予防啓発 ①

小名浜地域包括支援センターと短期集中予防サービス事業所「ショートステイ未来月見台」によるサービス体験会の実施

##### 【中之作地域の現状】

- ・小名浜地区において江名・中之作地区の高齢化率が高い。
- ・拠点となる介護事業所は一つのみであり選択肢が少なく、需要と供給のバランスが合わない。

～中之作地区の状況～

- ・人口 428人
- ・高齢者数 192人
- ・高齢化率 44.86%
- ・介護認定率 31.3%

##### 【取り組み】

介護予防啓発のため、集会所を利用し通所型短期集中予防サービスの体験を実施する。

～通所型短期集中予防サービスとは～

加齢に伴う運動機能低下の予防・向上を図り、日常生活動作の改善に至るようケアプランから課題を把握し目標の達成に資するストレッチ、有酸素運動、簡易な器具を用いた運動を行うもの。

## 2 各地域での取組み状況について

### 2) 地域の注目すべき取組みの事例

#### 地域における介護予防啓発 ②

##### 【実施内容】

全3回

- 令和2年7月20日（参加：26名） ★マットを使った柔軟体操  
7月27日（参加：17名） ★免疫力を高める口腔体操  
8月3日（参加：11名） ★集中力・瞬発力を高める転倒予防運動

##### 【参加者の声】

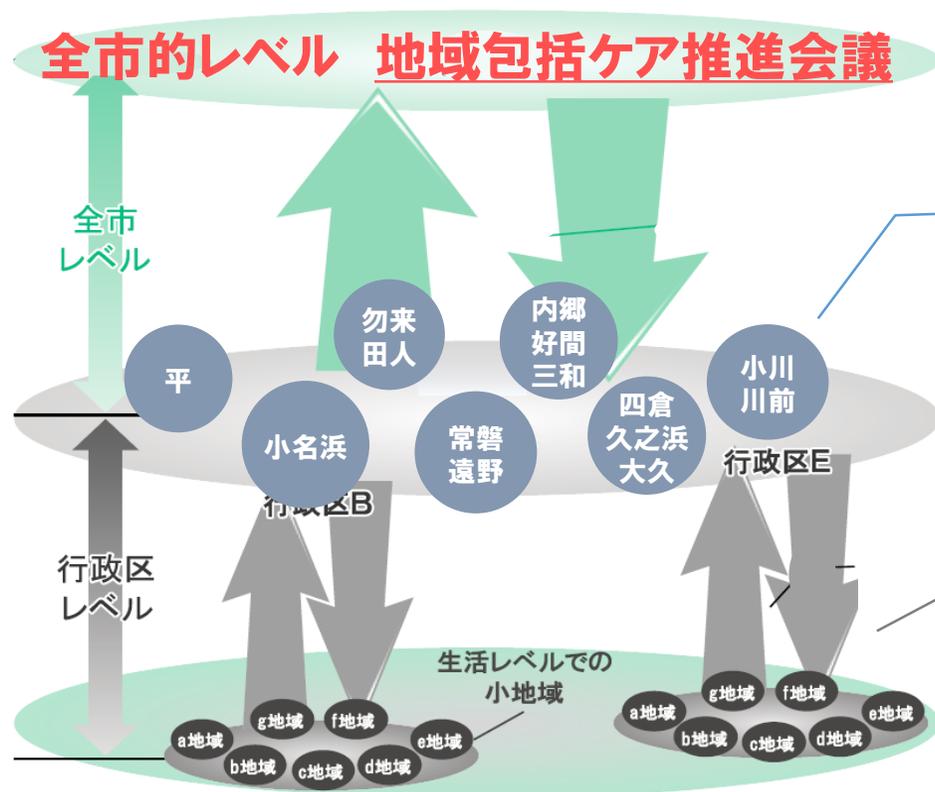
- ・機械を使わないので自宅でも取り組むことができた。
- ・介護サービスの利用は「介護施設に行く」というイメージが強く抵抗があるが、集会所での利用は気軽に参加できた。
- ・コロナウイルスの影響により閉じこもりがちであったが、運動する機会を持つことができた。
- ・同じ地区にいても数年ぶりに再会する住民同士も多く、良い交流の機会となった。
- ・サービスとして継続してほしい。
- ・通所型短期集中予防サービスの利用に興味はあるが、家からの移動時間が長いことがネック。近くで開催してもらえたら通いたい。

サービス体験中の様子



### 3 地域ケア会議の今後の方向性について

#### 【地域ケア会議の位置づけ】



#### 全市的な課題として検討

##### 中地域ケア会議

(地区保健福祉センター圏域)

個別・小地域ケア会議から出てくる課題について地域で解決を図る  
※地区保健福祉センター対応

##### 個別・小地域ケア会議

(中学校・小学校・徒歩圏域)

個別・小地域ケア会議で解決できない課題を中地域ケア会議へ提出  
※地域包括支援センター対応

中地域ケア会議において課題の洗い出し

### 3 地域ケア会議の今後の方向性について

#### 【地域ケア会議について】

市内7か所に設置している地域包括支援センターは「個別ケア会議」、「小地域ケア会議」を開催し、抽出した地域課題や地域課題の解決策等を中地域ケア会議へ報告する

##### 《個別ケア会議》

各地域包括支援センターの所管区域内で、課題を抱えている高齢者等の個別事例について解決に向けた検討を行うもので、必要に応じて開催

##### 《小地域ケア会議》

行政区、公民館区、中学校区等の小地域単位で、高齢者などが抱える課題の解決に向けた検討を行うもので、必要に応じて開催

地区保健福祉センターは「中地域ケア会議」を開催し、中地域に居住する高齢者が共通して抱える課題解決に向けた検討を行い、地域包括ケア推進会議へ報告及び課題提案する

##### 《中地域ケア会議》

地区保健福祉センターの所管区域における高齢者等が共通して抱える課題の解決に向けた検討を行うもので、年2～4回程度開催

会議名	平成29年度	平成30年度	令和元年度
推進会議	4回	3回	1回
中地域ケア会議	14回	19回	10回
小地域ケア会議	67回	57回	9回
個別ケア会議	30回	114回	86回
介護予防ケアマネジメント支援会議	20回	47回	39回

※令和元年度は台風19号及び新型コロナウイルス感染症の影響により、開催回数が減少。

### 3 地域ケア会議の今後の方向性について

(令和元年度第1回いわき市地域包括ケア推進会議における主な発言要旨から)  
地域ケア会議については、中地域の中でどのような事が課題として挙げられ、解決できた課題とできなかった課題について、その情報を集約して、それぞれの地域課題の解決に取り組んでいく場がこの会議ではないか。

#### 【地域ケア会議のこれまでの取組みについての課題】

個別ケア会議、小地域ケア会議において抽出された課題が地域全体の課題として整理されておらず、地域課題としての認識に繋がらないため、中地域ケア会議、地域包括ケア推進会議の各段階で地域課題として取上げる仕組みが弱くなっている。そのため、地域包括ケア推進会議において地域課題についての議論に発展しにくい。

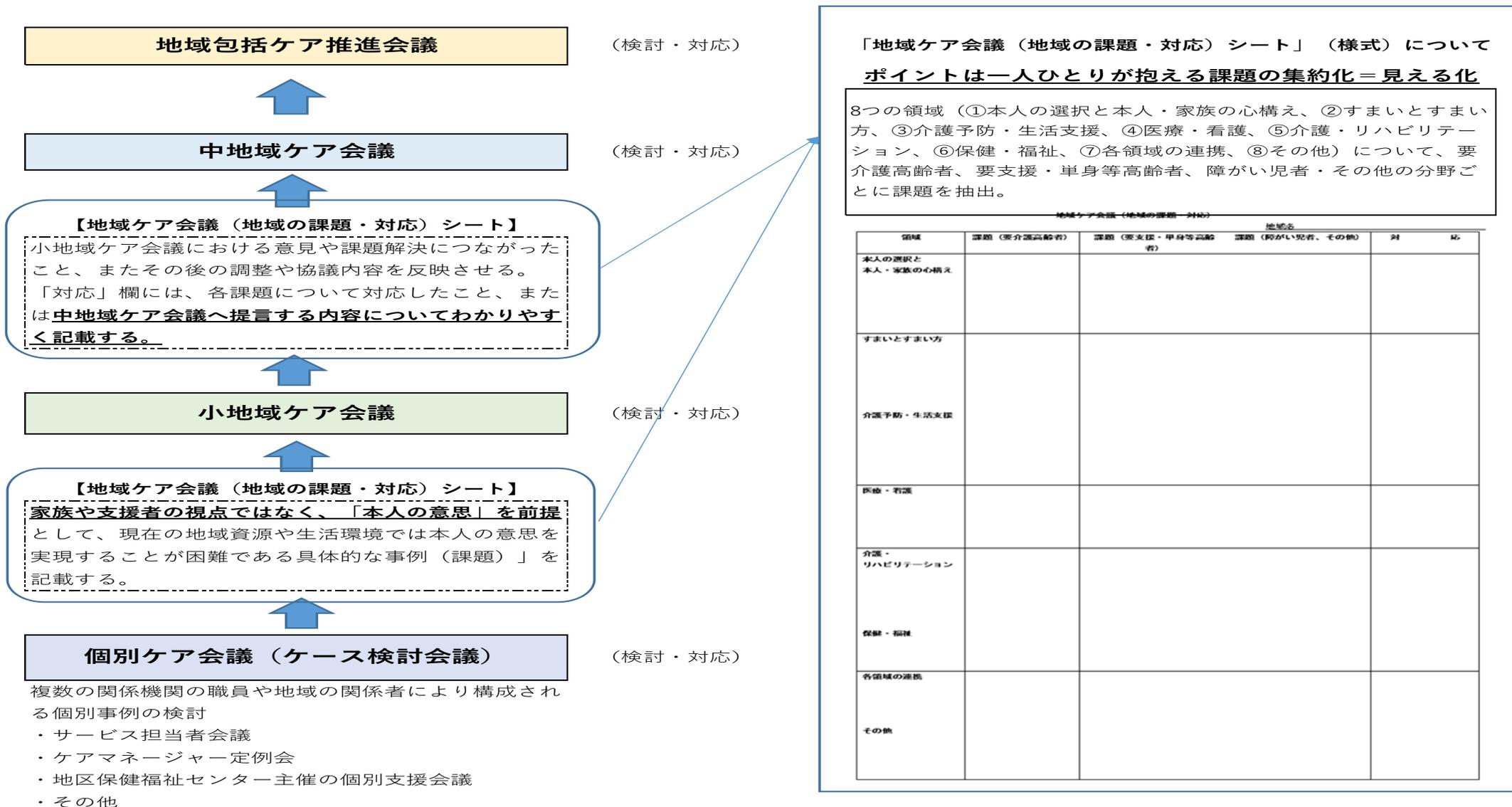
### 3 地域ケア会議の今後の方向性について

#### 【地域ケア会議（地域の課題・対応）シートの導入について】

- ・ 個別ケア会議、小地域ケア会議において抽出された課題を、地域の課題として集約して見えやすく整理（見える化）できるように、令和元年度より新たに地域包括支援センターが作成した「地域ケア会議（地域の課題・対応）シート」を取り入れている。それにより地域の課題がより見えやすく整理されることで、中地域ケア会議における地域課題を取上げる仕組みの強化を図っていく。
- ・ 地域で解決できる課題と解決できない課題を整理し、全市的な課題として検討すべき課題については地域包括ケア推進会議に提出し協議・検討を行う。

### 3 地域ケア会議の今後の方向性について

#### 【「地域ケア会議（地域の課題・対応）シート」導入後の地域ケア会議のイメージ】



### 3 地域ケア会議の今後の方向性について

#### 【地域ケア会議のボトムアップ機能強化のための対応方法案について】

地区保健福祉センター及び地域包括支援センターへのアンケートやヒアリングから、地域ケア会議の開催に係る基本的事項について以下の通り整理する。

#### 1. 地域課題の整理について

これまで⇒地域課題の取りまとめ方や課題の抽出方法は地区毎の独自の方法で取り組まれていた。



これから⇒個別ケア会議、小地域ケア会議において把握した課題をより見えやすく整理し、中地域ケア会議へつながるよう、全地区において「地域ケア会議シート」を導入する。

#### 2. 個別ケア会議・小地域ケア会議から中地域ケア会議へ提出する情報の例について

これまで⇒個別ケア会議、小地域ケア会議において把握した課題については、提出する課題の内容について地域包括支援センターの判断に委ねられてた傾向が強く、課題の内容についてもこれまでの「困難ケース」や「地域資源の不足」に関する内容に集中していた。



これから⇒「困難ケース」や「地域資源の不足」以外にも、中地域ケア会議において把握することが必要と考えられる情報もあるため、情報項目の例示を設け、取組み・対応における成功事例や進行中の取組みなども含めて報告する。

### 3 地域ケア会議の今後の方向性について

#### 【地域ケア会議のボトムアップ機能強化のための対応方法案について】

#### 3. 中地域ケア会議の事前準備（協議）について

これまで⇒中地域ケア会議の開催計画（案）の策定や、中地域ケア会議で取り上げるテーマの検討などについては、

①地区によって地区保健福祉センターのみで協議されている場合、



②地区保健福祉センターと地域包括支援センターが協議する場を設けて協議している場合

など、地区によって事前準備の取組みに違いがあった。

これから⇒中地域ケア会議の開催計画（案）や、中地域ケア会議で取り上げるテーマの検討などについては、個別ケア会議・小地域ケア会議の事務局を務める地域包括支援センターも協議に参加する。

#### 4. 中地域ケア会議への課題提案の時期・方法について

これまで⇒地区により月1回程度の頻度で地区保健福祉センターと地域包括支援センターが協議している場合や、必要に応じて  
 随時協議している場合、また、地域課題の提案方法についても統一した方法ではなく、担当者レベルでの口頭説明である場合など提案方法に課題があった。

これから⇒中地域ケア会議の開催については、約1か月程度の準備期間が必要となるため、地区保健福祉センターと地域包括支援センターにおいては、会議開催の1カ月前までに情報の共有・整理を図り、また課題提案については「地域ケア会議シート」に記載したものを提出し、中地域ケア会議で検討できる時期に提出する。

### 3 地域ケア会議の今後の方向性について

#### 【地域ケア会議のボトムアップ機能強化のための対応方法案について】

##### 5. 地域包括ケア推進会議への課題提案について

これまで⇒地域包括ケア推進会議の開催に合わせて、地域包括ケア推進課から各地区保健福祉センターへ課題提案の有無について照会を行っていた。



これから⇒速やかに事例や情報把握を行い、今後の対応案を検討する必要があることから、**各地区において中地域ケア会議開催後、随時課題提案の提出を行う。**また、課題の提案様式については、以下の内容を踏まえ今後作成する。

- ・ 提案する地域課題の概要
- ・ 提案する地域課題についてどのように検討したか、どのような対応案が出されたのか
- ・ 今後地域での取組み等で解決することは可能か
- ・ 市として政策的対応を行う必要性や効果があるか

### 3 地域ケア会議の今後の方向性について

【各地区の中地域ケア会議の今後の開催について】	
平地区	今後は新型コロナウイルス感染症の情勢を見極めながら、各委員にも開催の打診を行っていく。
小名浜地区	今後の開催については、リモートによる開催を検討していく。
勿来・田人地区	今後は新型コロナウイルス感染症及びインフルエンザの感染対策を行い、基本的には対面での開催を検討していく。
常磐・遠野地区	今後は開催方法について各委員の意見を収集し、検討していく。いずれかの形式で年度内の開催に向けて調整していく。
内郷・好間・三和地区	今年度は書面開催で進めているが、今後もどのような形式であっても各委員の意見を収集できるように進めていく。
四倉・久之浜大久地区	1月下旬に感染症対策のため例年の開催場所より広い会場において対面で開催する。
小川・川前地区	12月上旬までには書面開催し、新型コロナウイルス感染症の状況によって2月から3月に書面又は対面で実施できるように調整していく。